


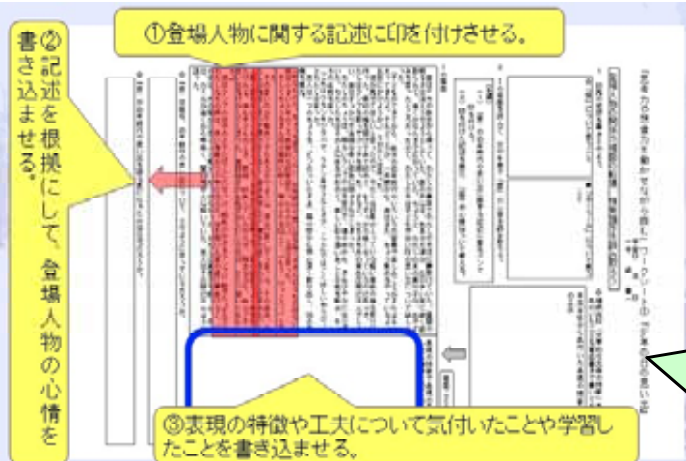

指導の実際 4

〔授業展開案 4〕「思考力や想像力を働かせて読む」

言語活動...「登場人物による仮想対談の内容を考える」

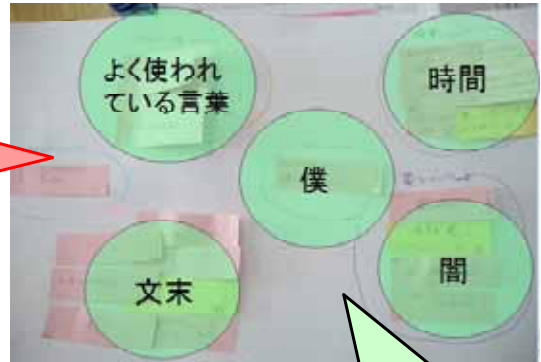
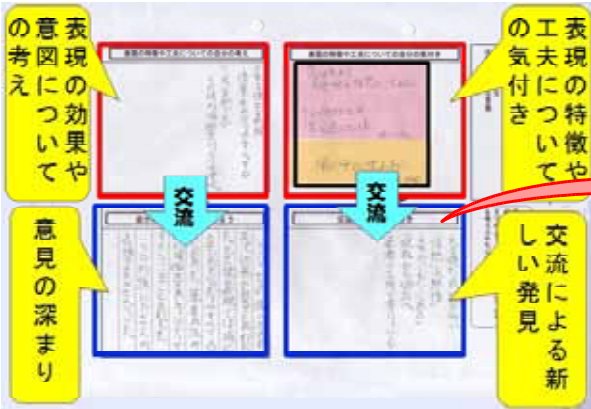
1 具体的な指導のアイデア
それぞれの過程で特に有効だった手立てについて詳細を説明しています。



過程	指導のアイデア - 手順、気付き、資料と資料活用上の留意点等 -	
見通しをもつ	<p>学習計画・自己評価表の利用</p>	<p>単元に入る直前に事前アンケートを記入させる。学習計画表を配布して、単元の目標と学習内容を確認させる。自分が書いたアンケートの内容を基に、単元で身に付けたい力を考えさせ、生徒に学習計画・自己評価表に書き込ませる。各自が設定した単元に身に付けたい力は、身に付けることができたと思った時点でその達成状況を記入するよう指示する。</p>  <p>単元の最初の時間に各自で記入をさせておき、毎時間の学習計画を確認する際に利用しました。生徒は自分ができていないと感じている項目を自分の学習課題としてとらえ、単元で身に付けたい力として書くことができていました。</p> <p>アの部分に各自が単元で身に付けたい力を記入し、イの部分にその達成状況を記入させました。そして、単元の最後に、単元を通して身に付いた力とその活用場面などについて、ウの部分にまとめさせました。</p>
	<p>身につける 習得 活用</p>	<p>登場人物の心情を場面ごとに読み取らせる際に、スモールステップによる学習活動を取り入れました。登場人物について書かれている記述に蛍光ペンで印を付け、印を付けた部分を発表して全体で確認をさせる。心情に関連のある本文の記述を根拠にして登場人物の心情を考えさせ、登場人物の人物像をとらえさせる。表現の特徴や工夫について気付いたことや考えたことを書き込ませておく。</p>  <p>生徒は最初の場面で活動の流れを把握し、その後の場面については、教師の指示がなくても活動することができていました。</p> <p>スモールステップによる学習活動を行う際には、細分化した活動を踏まえて作成したワークシートを利用しました。生徒の活動の流れに合わせて構成し、手順や留意点を示したワークシートは、生徒の活動を支えるものとして有効でした。</p> <p>本文を通読した後、表現の特徴についてとらえる際に、補助資料を参考にして考えさせる。場面ごとの読み取りの後、表現の工夫やその効果について意見の交流を行う前に、補助資料を見直して気付きをまとめさせる。意見の交流の際に補助資料を使って表現の特徴について確認をする。</p>  <p>生徒は、グループでの話し合いの際にも補助資料を参考にしながら意見を出し合っていました。補助資料を利用することによって、具体的な意見を出すことができ、自分の考えをもつことができていました。</p>

交流活動を取り入れた学習活動

表現の特徴をとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつために、本文の記述を基に意見を交換する交流活動を取り入れました。本文の表現の特徴についての気づきを、付せんに書き出させる。グループで意見を出し合い、表現の特徴についての意見をまとめる。まとめた項目ごとに、グループで、その工夫や効果、作者の意図について意見を出し合う。表現の工夫とその効果についてグループの意見をまとめ、それを基に自分の考えをまとめる。



交流の流れを示したワークシート

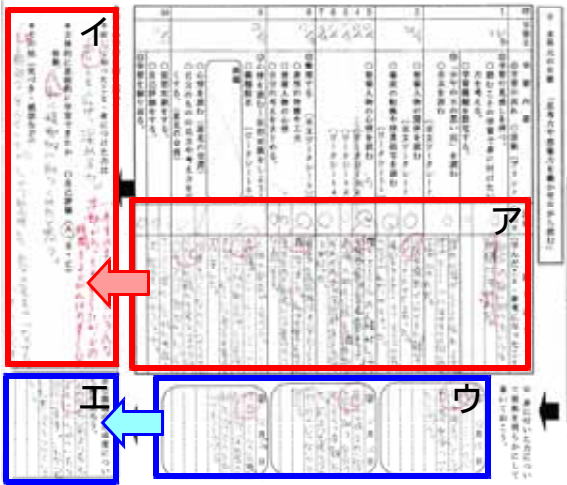
グループで意見を交流し、自分の気づきとの共通点や相違点を認識することで、生徒は、自分の考えを具体的にもつことができるようになっていきました。また、友達と意見を交流すると自分の考えが広がることに気付いていました。まず、表現の仕方についての気づきをまとめ、その後でまとめた項目についての効果や意図を話し合わせることで、生徒は自然に考えを深めることができていました。

グループで話し合いをさせる際、話し合いがしやすいように、同じ視点で書かれている付せんに分類するという手立てを取りました。このグループでは、「時間」「僕」「間」「よく使われている言葉」「文末」という項目で分類をしています。

学習計画・自己評価表を利用した振り返り

学習計画表を見て学習内容を振り返り、自分が書いた自己評価の記述を基にして、この単元で新しく知ったことや身に付けた力についてまとめる。自分なりに見通しをもって、学習できたかを振り返り、根拠を示して自己評価をする。単元の始めに設定した、単元で身に付けたい力（個人の学習課題）の達成状況について、根拠を示して自己評価をする。

振り返る



毎時間の振り返りの中で、どのような知識・技能を身に付けるための活動なのか意識させて書かせるべく、生徒は自分の設定した課題について具体的に反省を書くことができるようになります。

アの部分に書いた活動の振り返りを基にして、イの部分に根拠を明らかにして活動への取り組み状況を書かせました。エの部分にはウの部分に書いたことをまとめて、どのような力が身に付いたと思うかを書かせています。

生徒は活動の見通しがもてると、自分で方法を考えて活動するようになります！

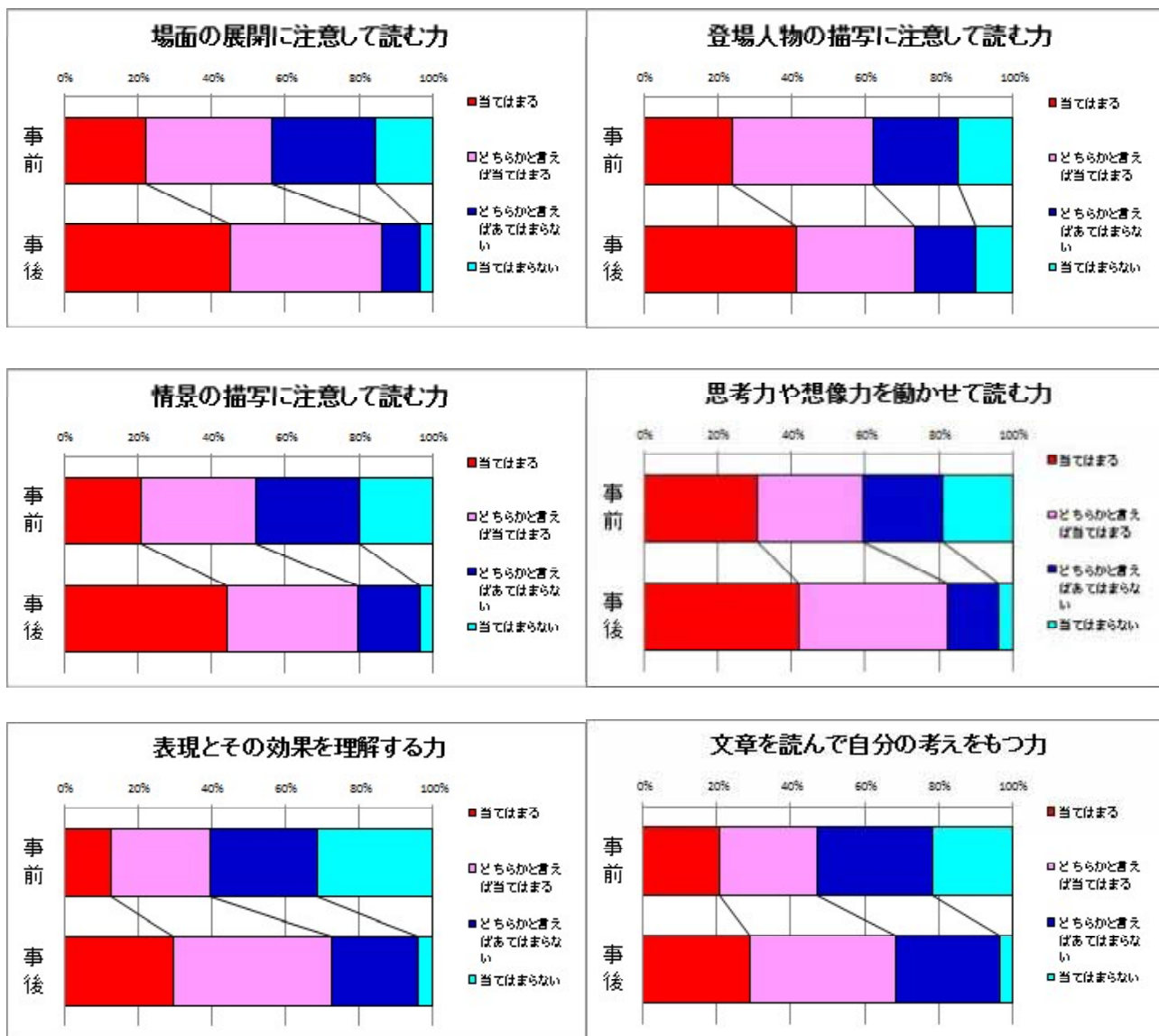


2 生徒の変容

1 アンケート結果より

- ・ 実際のアンケートでは、新学習指導要領の指導事項を基に、10項目でアンケートを実施しました。本単元では、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読む力をつける」「表現の工夫とその効果を踏まえ、心情を読み取る力をつける。」というねらいを達成するために、読むことの指導事項ウ「文章の解釈」、指導事項工「自分の考えの形成」に指導の重点を置いています。そこで、その指導事項にかかわるアンケート項目の割合を増やして作成しました。
- ・ すべての項目で、事前よりも事後の方が「～することができる(分かる)」と答える生徒の割合が増えました。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりです。(上のグラフが事前、下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示しています。)

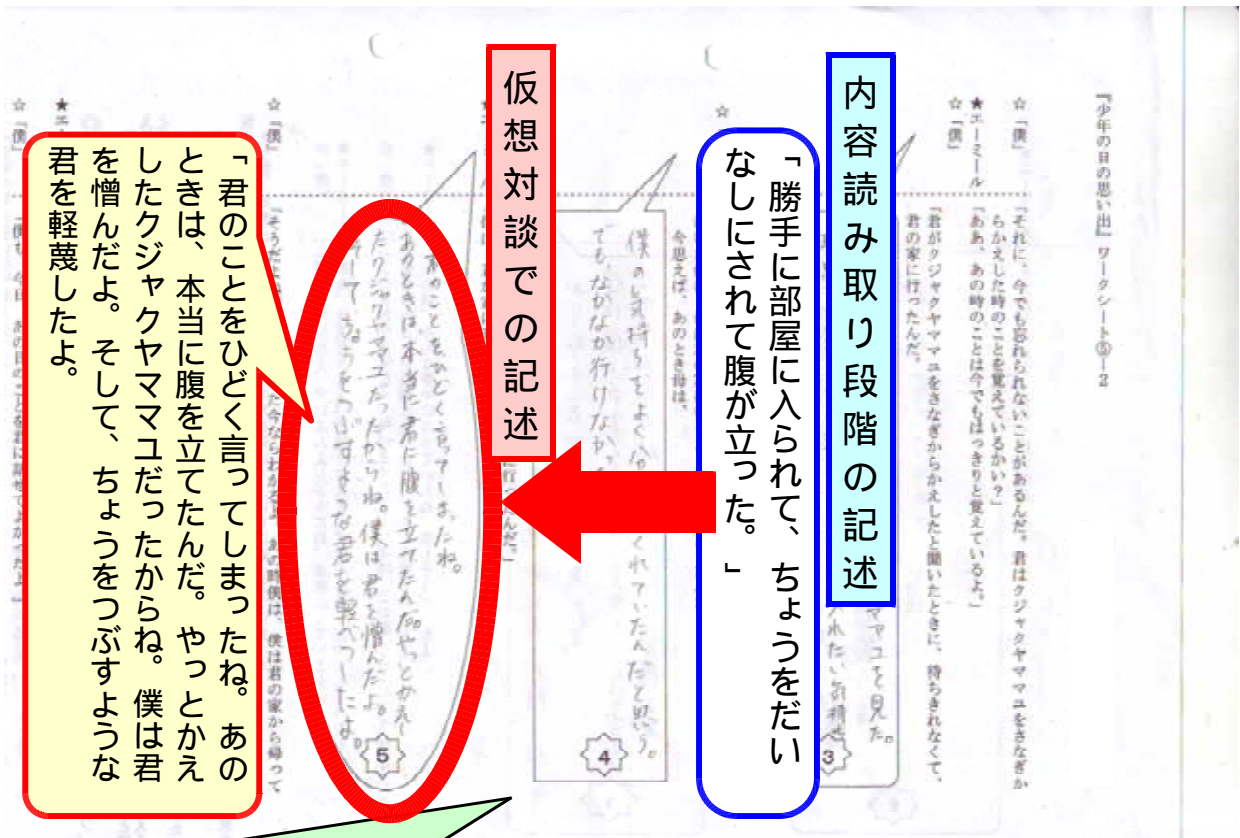
〔アンケートの集計結果〕



〔考察〕

- ・ アンケート結果から、登場人物の描写に注意して読む力や情景の描写に注意して読む力、表現とその効果を理解する力、思考力や想像力を働かせて読む力等、単元のねらいにつながる項目において、意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことが分かります。本単元の学習を通して、生徒が文章の内容や表現の特徴に注意して文章を読み、思考力や想像力を働かせて文章を読むために必要な知識・技能を習得したことがうかがえます。
- ・ ここに示した項目以外では、交流をして考えを広げたり深めたりする力が身に付いたと多くの生徒が意識していました。単元の学習を通して身に付けた力が、自分の考えの形成につながっていることをうかがわせる結果だと言えます。

- 2 生徒の感想より（抜粋）
- ・ 最初に身に付けたい力を自分で書くなどして目標を立てたので、自分の課題を克服できた時の達成感が大きかったと思う。
 - ・ この単元で身に付いた力は一つだったけど、私にとってはその一つの力が大切だったと思う。
 - ・ 情景を表す部分に線を引くなどワークシートの書き方が分かりやすく、ただ「書きなさい！」と言われて書くよりしっかり書けたと思う。しっかりイメージをもって読めたし、情景描写で登場人物の気持ちが分かることも学んだ。
 - ・ 表現とその効果がよく分かった。特に、エーメールの呼称の変化や擬人法などは、話に入りやすかったので、こういう表現方法を使ったら、おもしろい物語が作れるかなと思った。
 - ・ この話には文章を書くときの工夫がたくさんされていたので、そのことを次に何か書く機会があったときには自分も使ってみたい。
 - ・ 仮想対談をすることで、ただ読んだだけのときには気付かなかった描写について考えることができ、エーメールの気持ちが更に分かった。
- 3 生徒作品より



この生徒は、内容読み取り段階では、記述から分かる表面的な情報のみを記述していますが、仮想対談の中では、想像した心情を付け加えて内容をふくらませて書くことができています。

生徒作品はWebでも紹介しています。

3 指導者の考察

- ・ 人物や情景の描写に注目させ、内容を正確に読み取る力を付けさせるために、ワークシート等を利用して、場面ごとの描写を細かく押さえた。その結果、個人差はあるが、文章の記述に着目しようとする姿勢が育ってきていると感じた。ワークシートに本文を示し、人物の言動を中心に蛍光ペンで印を付けていく方法は、生徒が段階を踏んで文章を理解するのに効果的だったと思う。
- ・ 思考力や想像力を働かせて読む力を付けるために、「仮想対談」を言語活動として単元に位置付けた。生徒は仮想対談の内容を考えるため、それまでの授業で身に付けた知識・技能を活用し、設定に合わせるために思考力を働かせたり、文章の記述がない部分について想像力を働かせたりしながら、仮想対談の内容を考えることができていた。自分たちで課題を解決する過程を組み込んだ言語活動は、生徒の意欲を喚起することにつながったと思われる。
- ・ 交流活動を取り入れて、表現の特徴や工夫について考えさせる活動は、表現の仕方について自分の考えをもたせ、広げたり深めたりさせるのに有効だった。また、表現の特徴や工夫について見直すことは、内容の理解を更に深めることにつながることが分かった。
- ・ 「書くこと」との関連指導で本文の一部を脚本化する単元を構成し、登場人物の記述に表れていない心情を読み取る活動を行うことも考えられる。その際、実際に劇の実演を行い、「話すこと・聞くこと」との関連指導として単元を構成することも可能である。